

政策番号	20	政策分野	歩くまち
------	----	------	------

基本方針 市民、事業者、行政が一体となって「歩いて楽しいまちづくり」を推進することにより、クルマを重視したまちとくらしを、京都にふさわしい「歩く」ことを中心としたまちとくらしに力強く転換していく。

担当局	都市計画局
-----	-------

共管局	建設局, 交通局
-----	----------

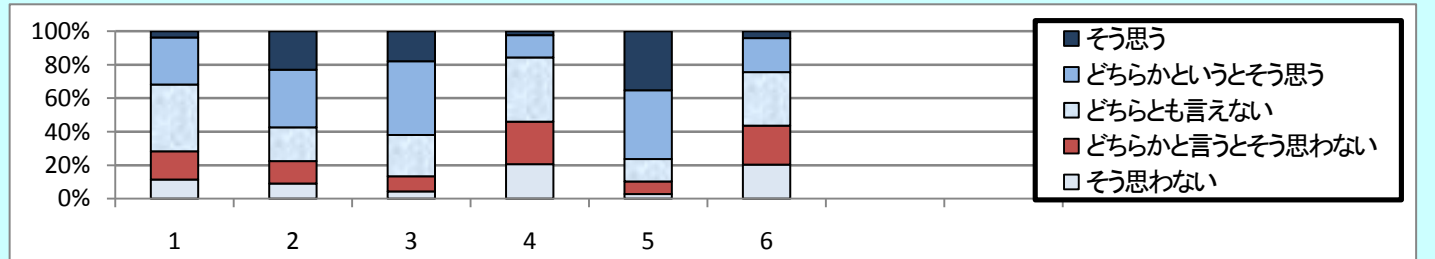
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年度	23 年度	24年度評価				
					前回は	最新値	目標値	達成度	評価
1 公共交通機関について残念と評価した割合(%)	12.6	6.3	-	-	-	12.6	-	-	-
2 放置自転車台数(台)	4,200	1,400	-	a	4,200	2,034	3,760	145.9%	a
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価				a	a				

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年度	23年度	24年度
1	京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル(くらし方, 生き方)が大切にされている。	-	c	c
2	京都での移動には、公共交通が便利である。	-	b	b
3	歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。	-	b	b
4	まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。	-	d	d
5	地下鉄, 市バスは, 市民生活に役立っている。	-	a	a
6	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により, 自転車と歩行者が共存できている。	-	d	d
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価			c	c



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		23年度		24年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	14	15.3%	16	13.9%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
	<p>【客観指標】・昨年度の指標「京都に関する感想調の悪い評価」については、調査方法を変更したことから、新たな調査における同種の指標として「公共交通機関について残念と評価した割合」を設定したため、評価は来年度以降になるが、残念と評価した割合が1割を超えていた。</p> <p>・放置自転車台数については、駐輪場整備や撤去強化によるマナー・ルールの上向を図り、前年度から大きく減少し、a評価となった。</p> <p>【市民の実感】・市民の実感については、全体として昨年度と同様の評価となった。</p> <p>・自動車の渋滞や自転車と歩行者の共存については、やや否定的な意見が多かったものの、地下鉄・市バス等の公共交通の利便性は高く評価されており、「歩くまち・京都」のイメージについてもかなり肯定的に評価されている。</p> <p>【総括】・市民の実感項目により隔たりがあったため、c評価であったが、客観指標はa評価となり、客観指標が市民の実感を上回る結果となった。昨年度と比較して、評価は変わっていないが、客観指標評価の指標を変更していることから、今後、取組の成果を注視する必要がある。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>	23年度	B
		年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
			23	24	
2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化	-	B	B	205
2002	歩く魅力を最大限に味わえるような歩行者優先のまちづくり	-	B	B	207
2003	歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換(「スローライフ京都」 ^{プロジェクト} 大作戦)	-	B	C	209
2004	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用	-	B	A	211
2005	歩行者と共存可能な自転車利用の促進	-	C	C	213

<今後の方向性>

・「歩くまち・京都」の実現に向け、①既存の公共交通の再編強化、②歩く魅力を最大限に味わえる歩行者優先のまちづくり、③歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換を推進する。

・既存公共交通の再編強化に向けては、地下鉄市バスのさらなる安全性と利便性の向上や、高齢者・障害のある方をはじめ、すべての人が安心・安全で円滑に移動できる交通バリアフリー化など、世界トップレベルの使いやすさを目指した取組を推進する。

・歩行者優先のまちづくりに向けては、歩道の拡幅等による安全でゆとりのある歩行空間の創出や、自転車等駐車場などの自転車利用環境の整備と利用マナー・ルールの確立など、快適な道路空間の構築に取り組む。

・歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換に向けては、利用者の視点に立った公共交通に関する情報の発信や、市民・観光客に公共交通利用への転換を促すモビリティ・マネジメントの推進など、様々な方法でライフスタイルの転換を促すコミュニケーション施策を展開する。

政策名	20	歩くまち
指標名	公共交通機関について残念と評価した割合 (%)	
担当部室	歩くまち京都推進室	連絡先 222-3483
1 指標の説明 観光客へのアンケートで公共交通機関について「残念」と回答した割合		
2 指標の意味 本市の公共交通状況に対する観光客の不満の割合を示す指標		3 算出方法・出典等 出典：京都観光総合調査
4 数値		
10年後の(平成32年度)目標値 (%)	平成24年度評価値 12.6	平成32年度目標値 6.3 根拠 現況値(平成23年度)から半減
	前回数値 22年度	最新数値 23年度
数値	-	12.6
	推移	-
	数値	-
	単年度目標値	根拠
	前年度比0.7%減少	達成度
	-	-
	全国順位	中長期目標
	数値	目標年次
数値	6.3%	32年度
	達成度	0%
	根拠	現況値(平成23年度)から半減
5 評価基準 公共交通機関について「残念」と回答した割合について、単年度目標値の達成度が a：100%以上 b：80%以上100%未満 c：60%以上80%未満 d：40%以上60%未満 e：40%未満		6 基準説明 単年度目標値の達成度が100%以上の場合を最高のaとし、以下20%刻みで設定した。
7 評価結果		
	23	24
-	-	-
	備考	平成22年度までの観光調査年報から、平成23年度は京都観光総合調査に変更されたことから、前年度数値との比較ができないため、次年度から評価を行う。

指標名	放置自転車台数 (台)	
担当部室	土木管理部	連絡先 222-3565
1 指標の説明 京都市内の鉄道駅周辺における放置自転車の台数		
2 指標の意味 「歩くまち・京都」の実現に向けた進ちよく状況を示す指標		3 算出方法・出典等 出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 4,200	平成32年度目標値 1,400 根拠 平成11年度から平成22年度の減少率を踏まえ、平成21年度数値(4,200台)から約65%減少すると試算。
	前回数値 21年度	最新数値 23年度
数値	4,200	2,034
	推移	2,166台減
	数値	3,760
	単年度目標値	根拠
	放置自転車台数の前回数値に過去最高の減少率(平成11年度から平成13年度、前回比82.5%減)を乗じた数値を当年度の達成目標とする。	達成度
	-	145.9%
	全国順位	中長期目標
	数値	目標年次
数値		
	達成度	
	根拠	
5 評価基準 単年度目標値に対する達成率 a：100%以上 b：90%～100%未満 c：80%～90%未満 d：70%～80%未満 e：70%未満		6 基準説明 放置自転車台数を平成32年度末に1,400台にするため、現状の台数から2,800台減少させなければならない。よって、現状と目標の差を5段階にて評価基準を設定し、進ちよく状況を管理する。
7 評価結果		
	23	24
-	a	a
	備考	今年度評価以降の単年度目標値については、平成21年度調査の放置自転車台数に基づき算出